

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473201091	事業の開始年月日	平成17年 3月 1日
		指定年月日	平成18年 4月 1日
法人名	医療法人社団優和会		
事業所名	グループホーム華寿園		
所在地	(241-0014) 神奈川県横浜市旭区市沢町571 - 1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和8年3月	評価結果 市町村受理日	令和8年5月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

華寿園では利用者様が日々の生活の中で自分らしく生きる(活きる)手助けをして自己選択・自己決定ができる事を大切にしています。
食事、掃除等の日常生活で行っているすべての動作を「生活リハビリ」と言い、この生活リハビリを積極的に行っていただくことで、心身の自立(律)意識を高めていただき、認知症の進行の緩和を目指しています。
散歩だけの外出ではなく買い物なども積極的に行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和8年3月31日	評価機関 評価決定日	令和8年5月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、相鉄線「二俣川」駅ならびにJR横須賀線「東戸塚」駅からバス便があり、各々の最寄りバス停から徒歩数分の住宅団地の一角に位置している。事業所に隣接して新緑脳神経外科病院がある。 【利用者の残存能力を生かした自立支援】 現在、終戦前後に生まれた利用者が多く、ほとんどの方が高校卒業後社会に出て働いた経験があり、そのためか自分の意見を持ち、自己決定もできている。自分のできる事は率先して行って職員を助けている。事業所としても、生活リハビリをケアプランに取り入れており、利用者は、洗濯物を洗濯機に入れる、洗濯物を干す、畳む等の作業や、食器拭き等を自分の役割として引き受けている。料理が得意な方は、朝、身支度を整えエプロンを付けてキッチンに立ち、包丁で食材を切る等の朝食準備をしている。日々、利用者と職員が互いに助け合いながら生活をしている。職員は、利用者が手助けしてくれる事に対して感謝の気持ちを常に伝えている。 【外国籍職員の育成と協働】 今年度2名の外国籍の職員が入職して、現在計4名の外国籍の職員が在籍している。生活習慣や宗教的な配慮のほか、同国出身の4名が母国語で話が出来るように休日と同じにする等、法人が全面的にバックアップし、働きやすい環境作りに努めている。また目指す資格の取得に向けた育成に力を入れ、管理者をはじめ先輩職員が支援している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム華寿園
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「それぞれのペースで笑顔あふれる穏やかな毎日を」という理念を職員同士で共有、実践しています。	利用者にとってどんなホームにしたいかを念頭に職員が話し合い、ユニットごとに毎年理念を作成している。現在の理念は、前年度から引き継いだ「それぞれのペースで笑顔あふれる穏やかな毎日を」「ゆっくり一緒に助け合い笑顔で暮らせる豊かな生活」としている。利用者の個性を尊重して穏やかな暮らしの実現に向け、理念に沿った介護計画を立て、日々のケアの中で実践している。また職員は基より、利用者も互いに助け合い、笑顔で過ごせる生活を目標にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的開催される運営推進会議で日常的なことや行事を報告し、避難訓練など地域の方と一緒にいるよう連携を図っています。	事業所は、災害時の連携を図る等、自治会や近隣との関係構築に努めている。職員は利用者を伴い回覧板を届けたり、利用者も近隣の方と散歩時に挨拶を交わしたりして交流している。地域の夏祭では、子ども神輿の休憩所として駐車場を開放して、利用者がお菓子やジュースを子ども達に配り、交流している。自治会主催の作品展に利用者の作品を展示してもらい、見学に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練を通して認知症の理解や支援方法を伝え、実践しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーである自治会長や役員の方々、地域包括・利用家族により情報を得てそこでの意見をサービス向上に活かしています。	運営推進会議は2か月ごとに、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所からは、管理者とリーダーが参加をして開催している。会議では事業所の行事や、運営状況等を報告して助言や意見交換等をしている。事業所の運営も安定しており、出席者からは、特段の意見や提案もないが、事業所は、地域情報を得たり、地域の方との関係を構築する機会と捉えている。	事業所のある住宅団地は高齢化が進み自治会加入者も減少傾向にあります。自治会や、隣接の病院とは、災害時の協力関係を構築しています。今後は、地域の認知症介護の相談窓口としての役割を担ったり、地域包括支援センターや自治会と連携を図り、認知症カフェを開催するなどして、更に地域に根付いた活動をされることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課・生活支援課など担当者と連絡を取り協力関係を築いています。	旭区高齢・障害支援課には、運営推進会議の議事録を郵送して運営状況等を報告したり、介護保険の手続き等のアドバイスを受けたりしている。年1回、生活支援課のケースワーカーが生活保護を受給している利用者の面談の為、来所している。また担当者とは、生活保護受給者の紙おむつや医療費等の相談等で、連携を図り支援をしている。行政からの研修情報はメールで届いているが、今年度は「都合がつかない」「定員枠に入れなかった」等の事情で参加できなかった。次年度はできる限り参加したいという意向がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」の研修を定期的に行い、職員全員が身体拘束をしないケアへの理解を深められるよう取り組みを行っています。	本部事務局職員、管理者、リーダー、ケアマネジャーをメンバーとし、身体拘束廃止委員会を虐待防止委員会と同時開催している。年2回、研修担当職員が講師となり、全職員が研修を受講している。研修では、研修担当職員が作成した資料を基に、事例検討などを行っている。スピーチロックに関しては、利用者に対して、「待つて」と言うだけではなく、理由も伝えるように、外国籍の職員を主に指導している。日中はユニットも玄関も施錠せずに、利用者が事業所内を出来るだけ自由に移動できるように配慮している。職員と一緒に利用者が他のユニットに出向く事もある。入居時に眠剤を処方されていた方が、常に職員がいることで安心し、生活のリズムが整い、眠剤が不要になった事例がある。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「虐待防止」の研修を自己点検シートを活用し、一人一人が正しく理解できるよう学んでいます。定期的に虐待防止委員会を開催しています。	虐待防止指針を定め、虐待防止委員会を開催している。不適切ケアのセルフチェックを年1回実施して、集計の上、次回の委員会で振り返りの話し合いをしている。不適切ケアが見受けられた際には、管理者は職員に話しかけたり、ケアを交代したりしている。また時には休息を取らせている。誕生会の際、利用者にティアラ、サンタ帽などを着用してもらっていたが、ある職員の指摘で利用者本人に希望を尋ねて、着用を判断している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、制度関係の理解を務め、必要時には活用できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、および契約内容改定の際にはご利用者様のご家族へ説明、文書の配布を行い、理解と納得を得られるようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様から意見や要望を伺う機会を設けています。ご家族様の面会時には近況の報告や要望・意見を伺い、支援や運営に反映させています。	家族の面会時に、利用者の日常の様子などを伝え、家族の希望や意見を聞いている。利用者の頭髪に関する要望のほか、「散歩をさせて欲しい」「家事をさせて欲しい」等の個別ケアに関する要望はあるが、運営に関する要望は特に出していない。家族への連絡は主にSNSを活用している。「華寿園だより」を毎月発行し、日常や行事での利用者の様子を写真入りで伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	毎月のカンファレンスで職員の見 意見や質問等、法人側と話す機会を 設けています。ユニット会議、日 常のやり取りで管理者は職員の見 意見や提案を聞き運営に反映でき るよう取り組んでいます。	ユニット会議兼カンファレンスと全体会議を全 職員出席の下、各々月1回開催している。年1 回、法人の介護部門の部長と統括部長が非常勤 も含めた全職員を対象に、人事考課も兼ねた個 人面談を実施している。面談では、年度の目標 や目指している資格等について話し合ってい る。令和7年3月からタブレットに介護ソフトを 導入してケア記録を入力している。また職員の 提案により、インカムや、離床センサーを導入 して業務の効率化を図っている。職員からは、 調理の際に使用するまな板4枚の消毒について 効率よく行う方法について意見があり、話し 合っている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	年に一回、本部長と個人面談を行 い、職員それぞれの目標を把握 し、達成状況の確認を行っていま す。向上心を持って働けるよう職 場環境の改善に努めています。	事務所脇にカーテンを閉めるとプライバシーが 確保できる休憩室を設けている。1階には簡易 昼を準備している。簡易昼は外国籍の職員がお 祈りをする際にも使用している。2階はソファ を置いている。フロアごとに、手足を伸ばして ゆっくり休憩できるスペースを確保している。 キャリアパス制度は特にないが、職員は目標設 定を行なった後、振り返りを行うことで、昇給 等に繋げている。離職率が低く働きやすい環 境で、勤務歴の長い職員も多い。定年後も嘱託職 員として勤務ができる。有給休暇は希望により 連続休暇も取得できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に沿って毎月社内研修を行っています。職員の能力、経験に応じて、社外研修への参加の機会を設けています。	年間研修計画に基づいて研修を実施し、職員は受講後に報告書を提出している。介護プロフェッショナルキャリア段位制度を導入してアセッサーを養成しており、OJTを行い、職員を育成し、段位を取っている職員がいる。外部研修受講の際は、法人が費用を負担し、業務扱いとしている。職員は受講後に、伝達研修を行っている。法人は職員の資格取得支援をしており、取得に関わる費用の全額支給や必要な研修を勤務扱いで受講できる。資格取得後は資格手当を支給している。認知症介護実践者研修は、順番で受講できるように管理者が職員に声掛けをしている。次年度は、新人も含めて他事業所との交換研修に参加する予定になっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、ブロック会への参加、情報共有や意見交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、困っていること、不安なこと、要望などを伺っています。ご本人の気持ちに寄り添った安心できる信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族だけの面談も必ず設け、ご家族の思いにも寄り添えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族にとって、今一番の求めていることは何か、施設としてできる事は何か考え、聞き取りをしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、日常生活を職員と利用者が一体となり利用者様の暮らしに寄り添い、自立支援につなげたサポートを行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人家族の思いに寄り添い、現場での情報をご家族とも情報共有しながら本人に寄り添った支援を行えるよう連携をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話で分かったことを記録や日々の報告で職員間で共有し、その人らしく生活を継続できるように支援につなげています。	友人や知人、親族の訪問があり、居室に通してもてなしている。現在、面会は事前予約制にしているが、他の制限は設けていない。携帯電話を使用する方が2名、自分で操作できる方は1名いる。自宅に居た頃のように、毎朝エプロンを付け自らキッチンに立つ方がいる。眉を描く方や、ヘアネットを付けて就寝する方もいる。家族に伴われ、美容院で毛染めをする方が2名いる。職員の依頼で、雑巾縫い、裾上げ、編み物などを行う方もいる。新聞を毎日新聞を広げ、記事を読む方やテレビ欄を見て、好みの番組チェックする方もいる。家族の手配で月刊誌の小説を読んでいる方や、配達される乳酸菌飲料を飲む方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の様子を職員間で共有し日々の生活の中での家事作業等において、時には職員が間に入ったりしながらお互いが尊重できるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方から連絡があった場合も管理者に報告をし、対応できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の業務の中でも、本人の思いや意向が把握できるよう本人の言葉に耳を傾け、職員間で共有し、検討しています。	入居前に利用者の生活歴、環境等を把握し、家族や在宅時のケアマネジャーからも情報を得てアセスメントしている。入居後は、入浴時など1対1になる時に本音が出ることも多く、思い出話だけでなく、思い違いなどの苦情を話すこともある。職員は話をきちんと聞き、利用者の思いに寄り添うが、事実と異なる場合は繰り返し伝えたり、難しい場合は職員を替えるなどして、丁寧な対応を心掛けている。言葉が出にくい方の意向の把握は、以前の反応を参考に、情報を共有して推察している。汲み取った情報は、タブレットのケア記録やメモに入力して共有し、介護計画に反映させることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護記録やそれぞれの職員の記録と共有し、どのようにつなげていくか会議をしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他職員の記録も把握し、ひとりひとりへの対応をできるよう努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認した上で、毎月のカンファレンスで検討し、作成しています。 事前に職員一人一人がモニタリングをして記入しています。	新規のケアプランは1か月で見直し、その後は3か月で見直している。通常は6ヶ月ごとに見直しているが、状態に応じて随時見直している。ケアプランが変更された時は回覧ファイルで共有し、夜勤職員が記録の入力を済ませた時間帯にSNSを用いて、周知を図っている。ケアカンファレンスの前に「ケアプランの振り返り」にケアプランのサービス内容について気づいたことを記載してモニタリングを行っている。ケアプラン一覧のファイルを事務所に置き、職員は目を通してしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテを使用し、日々の個別記録を残し、職員全員が共有し、次のケアに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で、新たに生まれるニーズは柔軟に対応し、取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りに参加したり、おみこしの休憩所として飲み物やお菓子を配る、作品展への参加等、地域との交流の場を支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との継続的な受診と、ご本人やご家族の希望する医療機関への受診と必要に応じ医療が受けられるように取り組んでいます。	利用者全員が協力医療機関（内科）の訪問診療を月2回受診している。訪問時は薬剤師と看護師が同行している。「内科往診記録」に医療情報を記載して職員間で共有している。眼科、耳鼻科、皮膚科等の通院は家族が対応している。訪問看護師が週1回訪問し、利用者の健康管理をしている。また職員からの医療相談に応じてくれる。近隣の薬局の薬剤師が一包化した薬を持参し、配薬までを担ってくれる。歯科は個別契約とし、歯科医が治療に訪れている。口腔ケアは歯科衛生士が行っている。衛生士の指導で日々の口腔ケアは職員が行っている。訪問マッサージを受けている方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日々のかかわりの中でとらえた変化や気づきを記録だけではなく口頭でも看護職員に伝え、感が職員からも指示やアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医療機関と緊急時にも入院先として提携しており、日ごろから情報交換や相談をして医師や病院関係者とスムーズな関係づくりができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に入居者家族に意向を伺い、ホームで支援できることを十分説明をし、希望に沿った支援が行えるようにチームで取り組んでいます。	契約時に事業所の看取りに関する指針を説明して同意を得て、入居1ヶ月後に終末期の意思確認書を得ている。終末期と医師が判断した時点で、家族等に再度確認し、事業所での看取りを希望した場合、看取り介護に移行している。看取り後は振り返りをして今後のケアに生かすようにしている。看取り経験の少ない職員や、外国籍の職員には精神的なケアも行っている。救急搬送で亡くなった方が病院から事業所に戻り、家族、職員でお別れをした事例もある。時には利用者も線香を手向けお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、定期的に研修を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加、協力をして頂き、避難訓練を行っています。災害時の協力体制も築いています。	令和7年3月に日中想定火災の避難訓練を机上訓練で行い、防火設備や防災用品の設置場所、避難経路の確認等を行っている。10月には、夜間想定避難訓練とし、通報からAEDの実習、炊き出しまでを実施した。民生委員、自治会から6名の参加があり、車いすでの避難のサポートや、見守り隊として協力があつた。隣接の新緑脳神経外科病院や自治会とは、災害時の相互協力協定を結んでいる。訓練はBCP（事業継続計画）に沿って行われ、SNSを用いた全職員の安否確認訓練も行った。災害備蓄は、利用者、職員分を含めて3日分の食料を廊下や玄関の収納庫に備え、リストを作成し管理している。	災害時の減災対策として、台所、事務所、居室内の家具の固定、転倒や移動防止策を再度確認されることを期待します。また地域と災害時の相互協力協定を結んでいることから、地域の方の分を考慮して、備蓄量の増加を検討されることも期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳に配慮、プライバシーについての研修を行っています。不適切だと思われた場合は注意をし、話し合える環境作りを行っています。	年間研修計画には、個人情報保護研修や機密保持、倫理等の内容が組み込まれている。職員全員が研修を受講している。入居時に利用者から個人情報の扱いについての許可を得ている。プライバシーに配慮し、職員が居室に入室する際は、利用者の許可を得ている。職員の接遇で気になる点は、管理者やリーダーが都度注意を促している。個人情報を含む書類は鍵のかかるキャビネットに保管し、パソコンやタブレットはパスワードを設定し管理している。	家族や職員との連絡や情報共有のツールとしてメールやSNSを活用していますが、ルールを設けていません。一例として、SNSは一定の時間内での使用とする、利用者の氏名ではなく部屋番号を記載する等のルール作りを行うことを期待します。
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを伺い聞き、自己決定できるような声掛けを行っています。言葉にならない思いにも気が付けるよう目配り、気配り、心配りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその方のペースに合わせて起床や就寝、希望に沿った日々の暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に合わせてオーダーし、美容師に散髪してもらっています。服装も好みに合わせてお気に入りの服装を楽しんでいます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、食器洗いや片付け等、それぞれその方の力を活かせるよう、職員がともに支援しています。食事の内容も食べたいものを伺い、提供しています。	毎日の朝食と夕食は業者から届くレシピ付き食材を調理している。昼食は、利用者の希望を考慮したり、行事に合わせた献立を作成し、ネットスーパーや、徒歩圏内のスーパーで食材を調達し、ユニット毎に調理している。職員も一緒に食事を取っている。時には、備蓄品の消費期限に合わせてカップ麺をとり入れたり、クリスマスにはファミリーレストランの大皿メニューやピザを取り寄せてバイキングパーティを楽しんでいる。また月1回、お弁当を取り寄せたり、お祭りの日の夕食は、紙皿やパックに焼きそばを盛りつけ、冷やしきゅうり、フランクフルトを串に刺して提供し、お祭り気分を味わってもらっている。利用者は、食器洗い、食器拭きはもとより、包丁を握り、食材を切るなどして下ごしらえに参加する方もいる。訪問時には、自分のエプロンを身に着けて台所に立つ姿も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の常用に合わせ、医療との連携にて栄養状態に配慮し、一日食事量と水分摂取量をチェックしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケア、義歯の衛生管理や訪問歯科を利用し、定期的に口腔内のチェックをしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認表を活用し、個々の排泄パターンを把握してトイレにて自然排泄ができるよう支援しています。	自立でトイレに行く方が8名、布パンツを使用している方とリハビリパンツを使用している方がいる。自立の方には職員が見守り対応をしている。全介助で紙おむつを使用している方が1名、夜間のみポータブルトイレを使用する方が3名いる。他の方はリハビリパンツにパッドを使用して、職員が個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。夜間は睡眠の状態をみながら誘導している。清掃は朝食後に掃除の時間を設けて行っているが、汚れたら都度掃除をして清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事や毎日ヨーグルトを提供して自然な排便ができるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の入りたい時間に配慮し、入浴の声掛けをしています。また羞恥心に配慮しています。	入浴は週2回午後に、1日2～3名としている。利用者の気分等を考慮して、順番を変えたり、気持ちよく入浴してもらえるように配慮をしている。面倒がるなどして、入浴を好まない方には、好きな入浴剤を選んでもらい、楽しめる工夫をしている。また浴槽を跨げない方はシャワー浴としているが、当日の体調に合わせて足浴、清拭に切り替える事もある。浴室に浴室暖房機を、脱衣所にはヒーターを備えてヒートショック対策をしている。浴槽の湯や足ふきマット、座面のマットも1名ずつ交換して清潔の保持に努めている。ゆず湯、菖蒲湯などの季節の湯も楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を常に清潔に保ち、一人一人の体調や習慣に合わせた安心できる休息環境を整えています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力、支援機や改良した確認表の活用により確実な服薬介助を実践しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の強みや希望に応じた役割を提案し、充実感をもって過ごせるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出するときはご家族より事前に連絡をいただき外出を楽しめるよう対応しています。 また、職員と一緒に買い物や散歩にでて、地域の方との交流ができるようにしています。	天気の良い日には、車いすの方を含めて近隣を散歩をしたり、庭のベンチで外気浴をしている。利用者も一緒に近くのスーパーに行って昼食用の食材を購入している。おやつを購入する為にコンビニに行った際にコーヒーを飲む方もいる。週2回、家族と外食に出かける方や、法事や墓参りに行く方もいる。正月には自宅で過ごす方もいる。桜の季節には近隣の団地内の公園で花見をしている。4月には、法人の協力でデイサービスの送迎車を使用して苺狩りに出かける企画をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のできる事を考え、家族の方と相談して支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を尊重し、電話や手紙のやり取りができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室には季節に合った装飾をしています。温度や湿度、遮光など快適に過ごせるよう配慮しています。	大きな窓があるリビングは採光も良く明るい。2階は吹き抜けのある高い天井で開放感がある。エアコンと空気清浄機で温度・湿度を管理し、居心地の良い共有空間になっている。壁にはイベント時の写真や、利用者が職員と一緒に制作した季節の貼り絵を飾り、季節感を演出している。事務所やキッチンからリビングが見渡せ、職員は作業中にも、利用者と会話を楽しみ、見守りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が自分に合った環境で過ごせるよう努めています。気の合う入居者同士でおしゃべりをしたり、時には穏やかに過ごせるよう配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等は使い慣れたものを使用しただき、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	居室のドア前に一步奥まったパーソナルスペースがあり、思い思いに写真や自作の塗り絵を貼り、各々が自分の部屋が分かるようになっている。居室には、エアコン、照明、カーテン、換気扇が備え付けられている。ベッドはほとんどの方がレンタルを利用している。使い慣れた家具類や、仏壇、テレビ等を持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ、カレンダーなどを飾り、居心地の良い居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚によって状況が判断できるように環境を整えています。安全に配慮しながら自立した生活が送れる環境づくりをしています。		

事業所名	グループホーム華寿園
ユニット名	こすもす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり一緒に助けあい、笑顔で暮らせる豊かな生活」という理念をユニットで考え、共有し、実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に運営推進会議を開催しています。夏祭りでは子供神輿の休憩所として駐車場を提供し、入居者から子供たちへお菓子のプレゼントをしました。避難訓練も行いました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練などで、認知症の理解や支援方法を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーである自治会長や役員の方々、地域包括、利用家族により情報をもらい意見を参考にしてサービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課、生活支援課の担当者と連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	全職員参加で定期的な研修を行っています。身体拘束をしないケアを行うよう取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務中に利己的になったり相手のおかれている状況を悪用してしまうような事が発生することがないように研修を行い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、学ぶ機会を持ち、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者家族にはその都度面談、説明を行い、理解・納得を図っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から意見や要望を聞く機会を設けています。ご家族等、来所時、電話やラインで気になったことや意見を伺い運営に反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体の会議が行われているその席で法人からの話や職員からの意見を聞いています。面談を行い個々の相談や提案を聞けるようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回面談を行い、目標や今後目指すことを話しています。目標を達成するにはどうすればよいかなど、向上心をもって働けるよう環境整備を行っています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画にそって必要な研修を行っています。キャリアアップのための社外研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加して情報交換をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、直後、その後は定期的に面談を行い、困りごとや希望を伺っています。本人が明るく暮らしていけるよう配慮し、安心できる関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のみで面談を行い、困っている事、要望を伺っています。不安な点がなくなるよう話を伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療の面からも考慮し、今どのような支援が必要かと本人の求めるものは何かをしっかりと話し合っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	提供するだけでなく、本人の自主性や自己決定を尊重して、家事活動やレクリエーションを行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話だけでなく、ラインでのテレビ電話、面会、外出、外泊、通院で本人とご家族の絆を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望の方には部屋に携帯電話を置いて頂き、ご友人等のコミュニケーションを楽しんでいただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性に合わせて相性の良い人と同じ食席にするなどしています。時々席替えをして人間関係がうまくいくよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談などがあった時には、管理者、事業部長で対応しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日申し送りで、気づいたことを職員同士で共有することで意向に沿うよう努力しています。共通なルールはカンファレンスで本人にとって最良の方法を検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の会話から、趣味・趣向などがうかがえた時には記録に残して職員に周知、把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子や本人の有する力を把握し「まだできる」ことへの支援を職員間で話し合い、記録し、共有しています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、入居者一人一人のケアについて話し合っています。変更があれば管理者が家族にその内容を伝えていきます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテというアプリを使用し、職員間で情報を共有、ケアの実践に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話の中や心身状況に応じて柔軟な支援やサービスを取り入れています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での夏祭りに参加し、子供たちにお菓子や飲み物を配りました。入居者はお神輿を担いできてくれた方々と話し楽しむことができました。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診では主治医と情報共有をして急変時の対応、指示を仰いでいます。必要があれば外部受診ができるように協力しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が入居者の状態を確認しています。職員の質問、相談にも対応し、入居者の受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、病院や家族を通じて入居者の経過を観察し、病院との情報交換を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が入居する際には、本人とご家族のご希望を伺い、ホームでできる事を説明し、適切なサポートを提供するよう努めます。定期的な研修を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は事故が発生した際に必要に応じて、迅速かつ適切な対応を提供できるよう定期的に研修を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員と入居者、地域の方にも参加していただき避難訓練を行い、協力体制を築いています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳に関する研修は年に一度行っています。入居者への声掛けや行動に気を付け対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いに寄り添い自己決定できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にしています。入居者の起床時間は個々に決定しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を使って好みの髪形にしています。洋服も自分で選べるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が生協のカatalogから好みの物を職員と一緒に選んでいます。食事の支度や片付けなどはそれぞれができる事を行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療と連携し、栄養状態や食事など配慮しています。水分量などもチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用し、口腔内の状態を確認しています。口腔ケアセットを定期的に消毒を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の意思の元、声掛けをしています。自立している方はその方のペースでトイレにいかれています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを活用しています。医療と連携し緩下剤なども使用し対応しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全や羞恥心に配慮しながら入浴の声掛け、入浴の支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の休みたいタイミングで休息しています。安全の確認を眠りスキャンを利用し行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科往診時、薬剤師に同席してもらい、薬の用法、用量について確認、理解しています。服薬支援機器を利用し安全に服薬できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなこと、やりたいこと、得意なことを把握し日々の暮らしの中で行えるように支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外出ができるよう対応しています。また職員と一緒に買い物や散歩にいけるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じて、ご家族と買い物へ出たり、すぐに必要な物は職員と買いに行けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるように支援しています。手紙はご家族へ渡しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾をしています。室内は温度、湿度に注意しています。空気清浄機付きの加湿器を複数台使用し快適な空間を目指しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で食事をしてもらっていますが、様々な場面に応じて臨機応変に対応しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のレイアウトは本人とご家族で相談してもらいますが、少しでも多くなじみの物を活かしてもらえるようにお願いをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して歩行ができるように物の配置など工夫しています。視覚によって情報を判断できるようにもしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 華寿園

作成日 令和8年5月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	16	○災害対策 台所や事務所 各居室内の家具の 固定、転倒や移動 防止	災害時の 家具や家電、 倒れる、落下、移動 防止対策をし 命を守る。	扉の解放防止 滑り止めの設置 4系内の工夫、 家具の配置	1年間
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。